

第4回大洲ロータリークラブ杯青少年なわとび選手権大会競技規定

☆ 参加規定

1 申し込みについて

- (1) 申し込みは締切日までに大会事務局に行くこと。
- (2) 締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場種目の変更は **一切認めない**。

2 団体種目の参加について

- (1) 違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合、**最も上のカテゴリーに属している選手の部門**で出場する。

例：小学生低学年と中学年が合同で出場する場合 → **中学年部**に出場。

3 健康状態について

- (1) 健康管理は保護者・チーム責任者の責任とする。
- (2) 傷害保険料を超える範囲の事故について、協会は責任を負わない。

4 棄権について

- (1) 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局へ **メールで届け出ること**。
- (2) やむを得ない場合は当日も可。

5 規定にない事態への対応

- (1) 規定にない事態が発生した場合は、**競技部（会長・審判長・事務局等）** で協議し決定する。

☆ カテゴリー

【個人部門】未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生（男女別）

【団体部門】未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生

☆ 競技種目

【個人部門】

未就学児：30秒スピード（前とび・親子とび）、二重とび

小学生：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）
二重とび、三重とび

中高生：30秒スピード（かけ足とび）二重とび、三重とび

【団体部門】

ペア二重とび、ダブルダッチ1分

☆ 表彰規定

1 個人種目

- (1) 参加者全員に**記録証**を授与する。
- (2) 各部門・各カテゴリー・各種目の**上位3名**には**賞状**を授与する。
- (3) 各部門・各カテゴリー・各種目の**上位1名**には**副賞**を授与する。

2 団体種目

- (1) 参加者全員に**記録証**を授与する。
- (2) 各部門・各カテゴリー・各種目の**上位3チーム**には**賞状**を授与する。

☆ 競技規定

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

※ **ビーズロープ、ワイヤーロープの使用は不可とする。**

【個人種目】

30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）

(前とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間で前とび(両足)を何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数(着地した回数)で表す。ただし、1回旋2跳躍は1回として計測する。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(かけ足とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に右足が地面についた回数で表す。
- (3) 前回し・後回しのどちらでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(あやとび)

1 競技方法

- (1) 30秒間であやとびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数(手がクロスした回数)で表す。
- (3) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(交差とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間で交差とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数で表す。
- (3) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

(親子とび)

1 競技方法

- (1) 30秒間で親子とびを何回跳べるかを競う。

- (2) 記録は 30 秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表す。ただし、1 回旋 2 跳躍は 1 回として計測する。
- (3) 親子とびに出場する子どもが複数の場合、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。
- (4) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から -10 回減点される。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

持久種目（二重とび・三重とび）

1 競技方法

- (1) 審判の「はじめ」の合図でスタートする。
- (2) 2 回旋技・3 回旋技を跳び始め、次のいずれかの場合に競技終了となる。
 - ① ロープが足に引っかかったとき
 - ② 跳ぶのをやめたとき
 - ③ 3 回旋技が 2 回旋技や 1 回旋技になってしまったとき
 - ④ 2 回旋技が 1 回旋技になってしまったとき
- (3) 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表す。ただし、あや二重とびは手がクロスした回数を記録とする。
- (4) やめたときに両足がロープを超えていれば、その跳躍は記録に含める。そうでない場合は、その最後の跳躍は記録に含めない。
- (5) 前回し・後回しどちらでもよく、かけ足で跳んでもよい。

2 試技回数について

- (1) 試技は原則 1 回とする。10 回以上跳べた場合はその記録を採用する。
- (2) 10 回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。それでも 10 回に満たないときは、2 回のうち良い方の記録を採用する。

3 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに個人記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

【団体種目】

ペア二重とび

1 競技方法

- (1) 1 分間（30 秒間×2 人）で、二重とびを何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は 1 分間の合計跳躍回数で表す。
- (3) 途中でロープが引っかかっても、競技は続行できる。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きがあったりした場合は不正スタートとなり、合計回数から -10 回減点される。

3 交代（スイッチ）について

- (1) 競技開始 30 秒後に交代の合図が鳴る。
- (2) 合図前にロープを回し始めたり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スイッチとなり、合計回数から -10 回減点される。

4 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。

ダブルダッチ1分

・1 競技方法

- (1) 1分間で「ダブルダッチかけ足とび」を何回跳べるかを競う。
- (2) 記録は1分間に右足が地面についた合計回数で表す。

2 スタートについて

- (1) 「Set」の合図から開始ブザーまでは、身体もロープも動かしてはいけない。
- (2) ブザー前にロープを回したり、ジャンプに関連する動きをしたりした場合は不正スタートとなり、合計回数から-10回減点される。

・3 選手構成について

- (1) 出場者はターナー2人、ジャンパー1人の3人1組とする。
- (2) 小学生中学年部門以上では、ターナーに小学生を1人以上含むことが必要。
- (3) 未就学児部門および小学生低学年部門では、ターナーは誰でもよい。

・4 ロープについて

- (1) 使用するロープの長さは自由とする。

・5 記録の確認

- (1) 競技終了後、審判が直ちに団体記録証に記録する。記録証は記録集計所へ提出する。